

わかりあえる 認め合える
わたしたちが創る男女平等社会



仙台防災未来フォーラム 2019
シンポジウム (2019. 3)



ししゅうで伝える「わたしの
物語」-東日本大震災の記憶-



講師
天野寛子さん



国立女性教育会館主催 男女共同参画推進
フォーラム (2018. 8)

「イコールネット通信」

2019. 3 Vol. 30

目 次

☆国立女性教育会館主催 男女共同参画推進フォーラム
防災・減災に取り組む女性を育てる
～仙台・福岡・東京の実践から～

☆ししゅうで伝える「わたしの物語」-東日本大震災の記憶-

☆仙台防災未来フォーラム 2019
シンポジウム 人間の復興はすすんでいるか
実践-防災・減災に取り組む女性を育てる-

☆つながり

防災・減災に取り組む女性を育てる-仙台・東京・福岡の実践から-

イコールネット仙台は、NVEC「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップに参加し、「防災・減災に取り組む女性を育てる-仙台・東京・福岡の実践から-」をテーマにシンポジウムを実施しました。防災にかかる女性の人材育成に取り組む仙台・東京・福岡から実践報告を受け、今後の展望を参加者とともに話し合いました。

日 時：2018年8月31日（金）15:30～17:30 会 場：国立女性教育会館

主 催：国立女性教育会館

企画運営：特定非営利活動法人イコールネット仙台

参 加 者：120名

【実践報告】

（1）東京から

報告者：清瀬市・東久留米市・西東京市の沿線3市男女共同参画連携事業2017「わたしの防災コトはじめ」の受講生

清瀬市・・・★阪神・淡路大震災でボランティアの際にトイレの使用が困難だった経験から講座に参加した。★地域防災力を高めるために、公共施設の職員として何ができるかを考えている。★避難所運営協議会は男性中心で女性が発言できない雰囲気だったが、防災ネットを立ち上げ仲間ができたことで自信が持てた。特に衛生面で女性の視点は不可欠、積極的に携わる必要がある。東久留米市・・・講座に参加して、地域づくりが防災につながることを知り、自分に出来ることは何かと思い、地域の避難所運営連絡会に顔を出した。構成メンバーは自治会や管理組合の高齢男性が多く、誰も大震災の経験がなく、話し合いは机上の空論、避難所運営と男女共同参画の関係がわからないという状態。立場や年齢の異なる人たちが自分の思いを率直に話し合えることが多様性を認め合う一歩で、そのためには男女共同参画の視点が大事だ。西東京市・・・★東日本大震災当時、子どもが通っていた小学校は親に子どもを引き渡していたのに、自分は集団下校を主張し下校させてしまい、中には親の帰りを一人で待っていた子がいたはずだと気づき、知識を持っていないと肝心な時に役に立たないと実感し、講座に参加した。★平日の日中に地震が起きると地域にいるのは高齢者と乳幼児を抱えた母親という地域で、井戸や畑がある地域性を生かして市民に情報を伝える活動をしていく。



(2) 福岡から

報告者：福岡県内 4 地区 8 市町で開催した女性のための災害対応力向上講座「避難所の運営に女性の視点を生かす」の企画運営にあたった NPO 法人ジェンダー平等福岡市民の会と福岡県

防災に限らず意思決定の場は男性中心で、福岡県 60 市町村の防災会議に占める女性の割合は 13.6%。女性委員がない防災会議も多い、熊本地震が発生して地震を意識したが避難所運営は他人事、豪雨の時に避難所で間仕切りの段ボールを男性リーダーが必要ないと言い、傍にいた男性が同意したことでそれが総意になり必要な女性が声を上げられなかった。男女が共に地域防災を担うためには女性の視点が重要であり、マイノリティや女性に居心地の悪い避難所にならないために女性リーダー育成に取り組ん



(3) 仙台から 特定非営利活動法人イコールネット仙台

2008 年に実施した「災害時における女性のニーズ調査」から様々なライフスタイルで暮らす女性たちの災害時の不安や心配が見えたことで東日本大震災時に避難所や仮設住宅での支援に動くことができたこと、震災時の女性たちの体験を記録として残すために宮城県内 3000 名の女性たちにアンケート調査を実施し『東日本大震災に伴う「震災と女性」に関する調査報告書』と聞き取り集「40 人の女性たちが語る東日本大震災」をまとめたこと、地域防災に女性の視点と女性の力を生かすために女性のための防災リーダー養成講座を 3 年間実施し 100 名以上の女性防災リーダーを育てたこと、女性たちが地域の中で様々な形で活躍している。

【フロアから】

- * 地域役員に女性の視点での防災について話したところ「女と子どもは黙っている」と怒鳴られた。
- * 自治体が開催した女性防災リーダー養成講座に参加したのは自治会長の妻で、仕方なく参加しているので実践に結び付かない。養成講座の参加者は高齢者が多く、30 年後に災害が起きたら動けるのか心配。
- * 託児付きで子育て世代への男女共同参画講座を開催したところ友だち作りに子育て中の女性が集まった。



ししゅうで伝える「わたしの物語」 —東日本大震災の記憶—

協力：せんだい3.11 メモリアル交流館

アーカイブ事業の一環として実施した本事業は、主に、仙台市沿岸部で被災した女性たちを対象に、25 cm四方の布に震災の経験や記憶をししゅうで表現してもらおうと開催した3回の連続講座。映像や写真とは違い、女性たちの内なる思いが静かに伝わってきます。

講座開催日 ①10月31日 ②11月21日 ③12月19日

会場 せんだい3.11 メモリアル交流館

講師：天野寛子さん（フリー刺繍画家・昭和女子大学名誉教授）

東日本大震災をフリー刺繍画で制作するため、「みんなのたからものししゅう高田松原プロジェクト」を立ち上げ、陸前高田の一本松をモチーフにしたフリー刺繍による作品が地元だけでなく全国から寄せられ、タペストリーとして、各地で展示会を行なっている。

38名の参加者の作品、計42点が、4枚のタペストリーに仕上がりました

＝タペストリーは、仙台防災未来フォーラム2019（3月10日）においてブースで展示を行い、多くの方々の参加を得ました＝



早坂 静子

震災前の貞山運河

仙台市若林区荒浜の原風景を表現しました。貞山運河を挟む松林（防潮林）で春と秋のきのこ採りをして楽しんだ事を思い浮かべながら、一針、一針糸を通しました。



遠藤たか子

栗

今は亡き義父が、孫達に拾わせたいと植えた栗の木を東日本大震災の津波で失いました。栗を見るたび優しかった義父を思い出します。



伊 東

藤塚と藤

藤塚という集落を知っていますか？震災で危険地域となり、今は誰もいません・・・
神社の松の木にからまる藤がみごとでした。

今後の展示予定

日時：4月24日（水）～5月19日（日）10:00～17:00

<5月7日（火）、5月13日（月）は休館日>

会場：せんだい3.11 メモリアル交流館（地下鉄東西線荒井駅舎内）

仙台防災未来フォーラム2019

シンポジウム 人間の復興はすすんでいるか 実践-防災・減災に取り組む女性を育てる-

日 時：3月10日（日）15:15~16:45 会 場：仙台国際センター

参加者：54名

東日本大震災以降、地域防災力の向上は、より一層重要な課題とされ、「仙台防災枠組」においても、多様なステークホルダーが防災・減災に取り組む必要性が強調されています。そうした中、地域防災の担い手として女性の力が不可欠であるとして、各地域で多様な主体が防災に係る女性の人材育成を行っています。そこで、仙台・流山（千葉県）・盛岡の人材育成の取組事例をもとに、現状と課題について意見交換をしました。

【パネリスト】

小野寺彰さん（北仙台地区連合町内会 会長）

山口文代さん（NPO 法人パートナーシップながれやま 代表理事）

平賀圭子さん（特定非営利活動法人参画プランニング・いわて 理事長
もりおか女性センター センター長）

小野寺彰さん

国の東日本大震災後の男女共同参画局の調査等をふまえて、北仙台地区連合町内会において、2017年～2019年、女性防災リーダー育成講座を実施し、100名の女性防災リーダー育成をめざしている。



山口文代さん

男女共同参画推進団体と流山子育てプロジェクトが連携し、震災を機に「防災 book」を発行。出前講座を実施し、2018年には「女性防災リーダー養成講座」を実施した。



平賀圭子さん

2014年～2018年、女性センター事業として、「女性防災リーダー養成講座」を実施。人材の蓄積を図っている。



課題<「育てる」⇒「その先」>



北仙台地区連合町内会

- ・「北仙台女性防災ネット」の立ち上げを支援
- ・自主的な学習会開催の支援
- ・連合町内会の防災協議会の構成メンバーとして参加

盛岡：盛岡市の人材バンクに登録

流山：「ネットワーク化」「自治会における居場所づくり」が課題

<フロアから>

★具体的でコンパクトにまとめられたシンポでした。男性の自治会長さんが登壇されたのは良かった。

★北仙台の会長さんのような男性会長が増えると地域も変わっていくと思う。

★地域・NPO・女性センターと異なる立場での防災まちづくりの話だったので興味深かった。

つながり

★★★今年度は、様々な団体・組織とつながることができた実り多い1年でした★★★

<共催事業> **みやぎ生協**

ワークショップ「わたし」から始める防災～女性ならではの感性を生かして～

9/20 みやぎ生協利府店 9/27 みやぎ生協高砂駅前店

<共催事業> **東北工業大学**

協力：CIL たすけっと・せんだい女性防災リーダーネットワーク

障がいのある人の災害対策を考えるワークショップ

- ①2018/11/3 ～自宅での備えと防災対策について～
- ②2019/2/10 ～避難行動と避難所生活とその対策について～
- ③2019/3/16 ～避難所のチェックと避難生活～

せんだい3.11 メモリアル交流館

『ししゅうで伝える「わたしの物語」-東日本大震災の記憶-』開催にあたって、施設から会場提供等の協力を得て3回の連続講座を開催。4月24日(水)～5月19日(日)には、ししゅう作品の展示が行われます。

<共催事業> **宮城学院女子大学「女性と災害」研究グループ**

2019/1/26 公開シンポジウム「女性と防災 次世代につなぐ協働の実践へ」

<「震災と女性」アーカイブネットワークの立ち上げ>

震災から時間の経過とともに、経験・記憶の風化が危惧される中、記録の重要性はますます高まっています。そこで、被災地はもとより、地域を超えて、「女性の視点」で震災を伝える取組をすすめている団体や組織に呼びかけ、毎年情報交換会を実施してきました。

そこで、「震災と女性」アーカイブネットワークの立ち上げを提案し、以下の方々にお声がけをしています。

エル・パーク仙台、エル・ソーラ仙台、せんだいメディアテーク、NPO 法人フォトボイス・プロジェクト、エンパワーメント11 (い) わて、NPO 法人インクルいわて、岩手大学男女共同参画推進室、いわぬま女性防災リーダーの会、せんだい3.11 メモリアル交流館、NPO 法人ウィメンズアイ、新潟県中越大地震「女たちの震災復興」を推進する会、せんだい女性防災リーダーネットワーク、震災語り部ワッター、大田区立男女平等推進センターエセナおおた 他

発行 特定非営利活動法人イコールネット仙台

発行日 2019年3月 連絡先 TEL・FAX 022-234-3066